

## 6. 牧場体験アンケートの集計と考察

では次に、牧場体験に参加した保護者の自由記述から、今回開発・実施した酪農体験プログラムの効果について見てみることにしたい。なお、1回目のアンケートは1回目の牧場体験の直後、そして2回目のアンケートは2回目の牧場体験の直後に実施した。設問は、合計4つで全て自由記述である。

### (1) 記述アンケート 1回目 特徴的記述の整理

#### 1. 帰宅後に牛や牛乳、牧場についてお子様とどのようなお話をされましたか？

- ✓ 何を体験してきたか、思い出して話しました。きちんと説明も聞いてきたようです。(年長)
- ✓ 牧場で一生懸命、働いている人たちがいるから、牛乳が飲めるんだよと話しました。(年少)
- ✓ 牛肉や牛乳は牧場お世話した牛から頂いている命や、大切さについて話しました。(年中)

#### 2. 牧場体験を通して、保護者が学んだことは何でしたか？

- ✓ 分かっていたことでも、実際、自分の目で見るとありがたさを身に染みて感じるものがありました。生まれてすぐの牛を「これは食肉用に育つ」という説明…心痛みました。(年長)
- ✓ ありがたく頂いているお肉ですが、牧場体験をして、今以上に命を頂いている事、牛乳を飲める事、全てを大切にして今後の食育に役立てていこうと思いました。(年少)
- ✓ 「くさい」「きたない」とは言わずに、楽しんで牛のお世話をしている子供たちを見て、“食べ物大切さ”は言葉で説明するよりもこう言う体験から学べることを実感しました。(年少)
- ✓ 牛の一生命体としての存在と、人のために改良され、妊娠出産を繰り返し、牛乳を生産する存在を同じ物として受け入れがたく、結論は出ていないのですが、他の食材同様、感謝を口にする以外、答えはないと思いました。(年少)
- ✓ 実物を見ないと分からないことも多く、より知識が深まりました。(年長)

### 3. ご自身のお子様の学びは何だったと思われますか？

- ✓ 近頃の子供達は、魚が売られている状態（開かれている状態）で海で生活をしていると思っているという話を聞きます。牧場に行って牛の乳しぼりをして、牛乳がどうやって出来るのかというのを身を持って感じたと思います。飲食物だけでなく、何事にもどうやって出来ているのか…ということ、考える力を養えたと思います。（年中）
- ✓ 今はまだ牛＝牛乳、牛肉とわからないかもしれないけれど、頭で考えるより体験をして、心で感じたことはずっと忘れないと思う。（年少）

### 4. 牛や牧場、牛乳に関する体験を通して、今後期待するお子様たちの学びは何でしょうか？

- ✓ 食卓やスーパーにある牛乳を始めとする食材は最初からパックに入っているわけではなく、牛や野菜などまた生産者に対する感謝やそれを口にして生きている自分を思いながら「いただきます」と言えるようになってほしいと思います。（年少）
- ✓ 自分が学生時代に稲や野菜の栽培をする実習で大変苦労したので、今まで子供が食べ物を簡単に残したり、そまつにする度に「この食べ物を作るのはどれだけ大変か、運んでくれた人も料理した人もいっしょうけいめいがんばっている」という話を聞かせていました。これにプラスして「生きている動物の命を分けてもらっている」という感覚を身に付けてほしいと願っています。（年長）
- ✓ 命を大切にすること、食べ物を粗末にしないこと、牛や豚に感謝することだと思います。（年中）

## （2）記述アンケート 2回目 特徴的記述の整理

### 1. 帰宅後に牛や牛乳、牧場についてお子様とどのようなお話をされましたか？

- ✓ 牛は2年後に殺されてお肉になってしまう事が子供の心に残ったようです。幼稚園生の子供には少し話がきつかったのでは…（年中）

### 2. 牧場体験を通して、保護者が学んだことは何でしたか？

- ✓ 牛の繁殖も搾乳も自然な部分が無く、人工的に管理されていることを改めて目のあたりにして、ショックでした。（年長）
- ✓ 日常、口にしていくたくさんのものには命があるということ。そしてそれを今回強く意識したことです。実家でも、野菜や米、果物を作っていますが、子供達にも作っている人の大変さや、命をいただいているということ、を伝えたいと思いました。（年中）
- ✓ スーパーに並ぶ高雑種の意味がよく分かりました。牛乳は賞味期限と値段で選ん

でいましたが、これからは牛乳が生産されたであろう牧場を思って購入し、飲むと思います。(年中)

- ✓ 子どもが食というものに実際に乳しぼり、おっぱいをあげたり、を体験しながらお話ができ説得力があり、実際に体験する大事さを見にしました。どんどん色々体験させてあげたいという気持ちが目ばえさせられました。(年中)
- ✓ 食育についてのお話は、あたりまえのことを、もっと深く考えさせられた感じでした。子牛がとても愛らしくて思わず「かわいい!!」と何度も発してしまったあとで、この牛は2才で売られ、食べられます…と聞いた時、何とも言えない気持ちになりました。(年長)

### 3. ご自身のお子様の学びは何だったと思われますか？

- ✓ 今まで「命を頂きます」と教えられたまま、言葉にしていたのですが、「さっき食べたお肉は牛よ」と言うと「牛さんごめんなさい!」と言って泣きました。姉にも牛の話をしていたので、二人で泣きました。「命」を頂いていることを実感したのではないのでしょうか。(年長)

### 4. 牛や牧場、牛乳に関する体験を通して、今後期待するお子様たちの学びは何でしょうか？

- ✓ 食べ残しをすることに悪いなと言う気持ちを少しでも持ってほしい。作ってくれる人に、感謝の気持ちを持ってほしいです。(年長)
- ✓ 私自身が学んだばかりですが、食物全てに生産の現場があり、消費者にはスーパーに並んだ形以前も想像し考える必要があることを共に学んでいけたらと思います。(年中)
- ✓ 食について、実際に体験してくれたので、親としても教えやすくなりました、実体験の大事さを親子で学ばせていただいて感謝です。今後はアイスクリームやバター、ヨーグルトなど出来合いのものを実際に作らせてみるとまた食の感心高まるのではと思いました。(年中)
- ✓ 榎本さまが最後に子供達にご自分の手のお話をしてくださいました。うちの子は野球をやっているのですが、帰ってきてから「ぼくは両方の手でボールをにぎれるから、もっともっとがんばらなきゃ…」と話していました。どこまできちんと感じ、理解したのかは定かではありませんが…とても貴重なお話をさせていただいて、心から感謝しております。

\*保護者の記述をそのまま反映しました。誤字脱字などがありますが、それもそのまま写しています。

### (3) 自由記述の分析と考察

①対象：保護者 20 名（うち年中児童の保護者 15 名、年長児童の保護者 5 名）

②分析及び考察の手順

アンケートを用い、児童と保護者が牧場体験を通じて何を感じたか、また児童の学びは何であったのかを保護者の視点から分析するために以下の手順を踏んだ。

1) 分析内容の決定

→「牧場体験を通じ、保護者と児童は何を感じ、何を学んだのか。」

2) カテゴリー表の作成

→カテゴリー表の作成にあたっては、複数人でカテゴリーの分類を検証し整理した。

4) 結果の分析・考察

アンケートは2回実施された。牧場体験に参加した保護者が回答しているが、一回目と二回目では参加している保護者がほとんど異なっている。一回目の参加者は12名、二回目は8名である。そのアンケート結果を質問項目ごとにまとめた。

#### 1. 帰宅後に牛や牛乳、牧場についてお子様とどのようなお話をされましたか？

一回目では「出産」と「乳搾り」の記述が目立った。「出産」は50%、「乳搾り」は41%の保護者がコメントしていた。二回目では「牛が牛肉になること」と「牛にミルクを与えたこと」への記述が50%、「出産」に関して37%の保護者が言及している。

保護者は、牧場体験で実際に経験したことを子どもと話しているようである。一回目で牛の出産に立ち会えたことは保護者と児童双方の印象に強く残っているようである。

#### 2. 牧場体験を通して、保護者が学んだことは何でしたか？

一回目では、25%の保護者が「命の大切さ」と「出産」について記述した。二回目では「命の大切さ」について50%の保護者が言及している。

保護者は牧場体験を通して、命や出産について考えさせられたようである。保護者の目の前で生きている牛が、日常的に食べている肉に変わってしまうことを実際に牧場に行くことで実感したようである。

以下のような記述をした保護者がいる。「分かっていたことでも、実際、自分の目で見るとありがたさを身に染みて感じるものがありました。生まれてすぐの牛を「これは食肉用に育つ」という説明…心痛みました。」実際に体験した保護者だからこそ、命の大切さを実感できたようである。

### 3. ご自身のお子様の学びは何だったと思われますか？

一回目では「牛が食肉、牛乳になること」、「出産」に関する記述が 65%ある。二回目では、「牛が食肉、牛乳になること」について 37%の保護者が記述している。

日常的に飲み食いしている牛乳や食肉の元の姿を子どもは学ぶことができたということであろう。スーパーで売られている食品は加工が加えられており、その原型を留めていないものが多い。子どもたち牧場で実際の牛に触れ、牛に関する話を聞くことで日頃見ている牛乳や食肉にリアリティーを感じられるようになったのではないと思われる。

ある保護者はこのような記述を残した。「近頃の子供達は、魚が売られている状態（開かれている状態）で海で生活をしていると思っているという話を聞きます。牧場に行って牛の乳しぼりをして、牛乳がどうやって出来るのかというのを身を持って感じたと思います。飲食物だけでなく、何事にもどうやって出来ているのか…ということ、考える力を養えたと思います。」体験をすることで、食事に対する認識が変わったようである。

### 4. 牛や牧場、牛乳に関する体験を通して、今後期待するお子様たちの学びは何でしょうか？

一回目では「命の大切さ」と「食への感謝」について 25%の保護者が記述していた。二回目では、「命の大切さ」が 62%、「食への感謝」が 37%を占めている。

保護者は体験活動を通して、他の動物の命を頂いて、自分の命をつないでいることを子どもに学んでほしいと考えている。

実際に「食べ残しをすることに悪いなと言う気持ちを少しでも持ってほしい。作ってくれる人に、感謝の気持ちを持ってほしいです。」と記述した保護者がいた。普段ではできない体験をすることによって、その現場での苦勞を感じ、日常的な食に対する認識が変わったようである。

今回の体験では、牛の出産に立ち会うことができた。牧場体験で牛の出産に立ち会う機会は珍しいものであり、その結果出産の印象が強くなったため、出産に関する記述が多くなったと思われる。また、参加した保護者、児童は乳搾りや牛の世話などの体験を通して、牛から牛乳や食肉ができることの再認識や、命の大切さ、食への感謝などを感じたようである。

カテゴリー表（牧場体験についての感想）

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	具体的記述例
酪農	牧場環境	設備	・児童搾乳システム
		牧場経営	・年中妊娠
牛	牛に触れ合っ ての感想	牛の世話	・毛が柔らかい
		乳搾り	・あたたかい
	牛の特徴	牛の生態	・牛のおっぱいの位置
	牛乳、牛肉関係	乳製品の製造過程	・牛から牛乳が出る
		肉製品の製造過程	・生まれて2年後に牛肉になる
牛のいのち	出産	・出産に立ち会えて感動した	
食育	いのちの大切さ	いのちの大切さに関するこ と	・いのちの大切さを学べる
	感謝	食材への感謝	・感謝して食べる
		食材の製造に関わる人へ の感謝	・感謝して食べる
	体験	体験することの重要性	・体験から学べる